

## 高校生へ 私が選んだ 1冊の本

### 桜の科学

勝木 俊雄：著  
サイエンス・アイ新書

私たちは、春になると桜をよく見かける。桜は春の訪れを象徴している、人々になじみ深い植物である。しかし、私たちは桜について深く考えたことはあるだろうか。本書には、日本の代表的な桜である染井吉野、桜と日本文化についてなど、私たちが抱く桜のイメージとは異なることが多く記されている。

私が小さい頃から祖母の家には桜がある。一体それらの樹齢はどのくらいだろうか。本書には、桜の樹齢について書かれているところがある。「染井吉野」は幹の直径が1mになるまで百年かかるものも、かからないものもある。また樹齢には、株年齢と幹年齢があり、幹は腐朽しやすいので幹年齢には限界がある。私はこのことから、桜の樹齢とは株年齢であり、樹齢を出すことは難しいのではないかと思った。

さらに、幹は腐朽しやすいため、桜の枯死に影響していると書かれている。「サクラ切る馬鹿梅切らぬ馬鹿」私はこの言葉を聞いたことがあった。意味は知らなかったが、本書によるとこれは桜と梅の剪定法に違いがあることを意味するものだと分かった。桜は幹や枝を切るとそこが腐りやすくなるが、梅はいらぬ枝を切らないと、翌年花が咲かなくなるということを示しているそうだ。私は桜や梅にはあまり詳しくはないが、他の種の木も剪定が必要なので、桜にも剪定が必要なのではないかと疑問に思った。本書を読み進めると「まったく剪定されていないサクラはだんだん衰弱して花つきも悪くなっている。」と書かれていた。前述のことわざは一般に認知されているが、実際は異なり桜にも適当な剪定が必要であることが分かる。

先程も述べたように桜というのは、春のイメージが強い植物だ。しかし実際は、一年中どこかで桜が咲いているらしい。私はとても驚いた。今まで春以外に桜が咲くのは、見たことも聞いたこともなかったからだ。しかし、桜は狂い咲きによって一年中咲いており、毎年どこかで染井吉野の狂い咲きの報道がされているらしい。この“染井吉野”は日本で最も一般的な桜であり、百年前に韓国の済州島から発見されたエイシュウザクラと似ているということから、原産地は韓国の済州島だという説や、エドヒガンとオオシマザクラの種間雑種であるという説があるが、日本では後の説が主流となったようだ。もしも最初の説の通りであれば、エイシュウザクラと染井吉野は同種の桜であるのではないかと疑問に思う。

春には花見をする人も増えてくる。本書によると、桜は万葉集に多く詠まれたことから、奈良時代から親しまれていた。しかしその頃は、中国文化が日本に入ってきたことから、梅が春を代表する花であった。そのため花観賞には梅の花が用いられていた。しかし、平安時代になって遣唐使の停止で日本独自の文化、国風文化が発達してきて花見の対象が桜に変わってきたそうだ。もし花見の文化がなかったら、桜は春を象徴する植物ではなく、多くの魅力を感じるものがなくなっていたと思う。そう思うと、昔の時代の流れがいかに大切であったかが分かる。昔の花見の文化があることで現在、日本だけでなく海外の人々にも桜の魅力が伝わっていると思う。

本書を読んで、私がこれまで見たことも考えたこともなかった桜の真実について、たくさんを知ることができた。桜だけでなく他の植物にもこのような真実が隠れていると思うと、植物は奥が深いのだなと思い、とてもわくわくする。以前は桜のことについて知らないことが多かったが、本書のおかげで、これから桜を見るときには違った視点から見ることもでき、それもまた桜を見る一つの楽しみになると思う。

(和歌山県立日高高等学校 2年 森本 あみ)